

# わたしたちのリレー



運動会が三日後にせまった予行の日、かずやさんが熱を出して学校を休んだ。四色対こうリレーでは、わたしがかずやさんのかわりにもう一回走るようになった。

けっかは一位。わたしたち白組は、初めて勝った。

「ばんざいー！」

チームは大さわぎになった。

白組は、それまでの練習ではいつもビリだった。初めのほうは一位を争っていても、かずやさんのところでみんなにぬかれてしまう。

かずやさんは、何をしてマイペースで、リレーのときもゆっくりと走る。ときには歩き出すこともあって、ほかのチームに大きな差をつけられてしまうのだ。

はじめてばんざいをするわたしたちに、青組のこうへいさんが言った。

「かずやさんがいなかったら、白組は強いなあ。」

それを聞いて、わたしははっとした。白組のみんなもだまってしまった。マイペースでぬかれていくかずやさんのすがたと、明るくておだやかなかずやさんの笑顔が、わたし

の頭の中にかわるがわるうかんできた。

放課後、バトンパスの練習をしたあとで、白組のみんなで話し合った。  
みんなもすっきりしていなかった。

運動会の前日になって、かずやさんがやっと学校にきた。かずやさんは、いつものやさしい目をしながら、

「おはよう。」

と手をふった。わたしたちはかけよって、口々に声をかけた。

「おはよう、かずやさん。」

「やっと全員そろったね。」

こうへいさんも、かずやさんに話しかけた。

「あしたのリレー、がんばろうな。そうだ、昼休みにいっしょに練習しようよ。」

かずやさんは、にっこりわらった。わたしたちもわらった。

「じゃあ、青組と白組のみんなは、一時に運動場に集合。」

わたしの声が教室にひびいた。

いよいよ、あしたは運動会。最高のリレーにしたいな。

